

周防大島町の話題



▲みかん収穫体験の様子（もぎたてのみかんをパクリ）

選択別体験プログラム

10月7日、季節に応じて周防大島町ならではの体験ができる「選択別体験プログラム」で兵庫県の小林聖心女子学院小学校の5年生が訪れ、みかん収穫、カヌー、塩づくりを体験しました。

周防大島町では、海と山の自然の中で農村漁村の暮らしを体感する「体験型教育旅行」の受け入れを行っており、実施にあたっては、新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインを設け、条件を満たしている場合にのみ行われています。

美しい海、豊かな自然を次世代へ

10月23日、海ごみゼロフェスタ in 周防大島が山口県大島防災センターで開催されました。「マシンガンズ滝沢と考える海ごみ問題」と題し、お笑い芸人であり、ごみ収集員としても働いている滝沢秀一氏による講演および藤本町長による「海ごみゼロ宣言」が行われました。

講演の中では、海ごみの問題は海だけの問題ではなく、多くのごみが陸から流れでたもので、すべてつながっていると話し、購入するものも最後まで使うか考えて買うこと、自分が使ったものに責任を持つことや「分ければ資源、混ぜればごみ」と、分別の大切さなどを伝えました。そして、ごみ問題を解決するためには「基本的にはできることから始めて、自分達だけではなく、みんなの問題と認識することが一番大事なことなのかな」と語りかけました。

講演後には、藤本町長が「海ごみゼロ宣言」を読み上げ、海ごみゼロに向けて行動することを宣言しました。



◀海ごみゼロに向けて行動することを宣言する藤本町長

周防大島町 海ごみゼロ宣言

海ごみの最たるものはプラスチックです。安価で使いやすく、私たちの生活に欠かせないものである一方、不用意に捨てられてしまうと、河川などを通じて海へ流れ込み、海洋環境を永きにわたり悪化させます。またプラスチックは、細分化され、マイクロプラスチックとなり、生態系への影響も懸念されています。

海ごみは、日本だけでなく世界規模の喫緊の課題であり、私たち一人ひとりが、この課題を「自分のこと」として捉え、行動する時です。

私たちの住む周防大島は、瀬戸内海に四方を囲まれ、日本最大級のニホンアワサンゴ群生地を持つ貴重な地域です。

周防大島の美しい海を、豊かな自然を、次の世代に残すため、海ごみの実態の正しい理解を深めるとともに、3R (Reduce、Reuse、Recycle) のさらなる推進・徹底など身近なことから、海ごみゼロにおけ、自ら不断の取り組みを行うことをここに宣言します。

令和4年(2022年)10月23日

周防大島町長 藤本 浄孝

▶自身の活動を通して環境問題、ごみ問題について講演する滝沢氏

